

2025 年 8 月 26 日

日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で ～横浜港・東京港・JMU・川崎港において教員向け見学会を実施～

当協会では、日本を支える海運の役割や重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しています。

今般、7 月 12 日（土）に横浜港、7 月 21 日（月）に東京港、7 月 28 日（月）に JMU 及び川崎港、8 月 6 日（水）に JMU 及び横浜市において、それぞれ教員向けの見学会を実施しましたので、その模様をお知らせします。

1. 自動車船の見学会（7 月 12 日（土） 横浜港）

7 月 12 日（土）・13 日（日）に横浜市内で開催された「海洋都市横浜うみ博 2025」において、日本郵船が 7 月 12 日（土）に横浜・大さん橋で自動車船「PLEIADES LEADER」の船内見学会を実施しました。

これに合わせて当協会は、日本郵船の協力のもと、日本海事広報協会と共催で小中学校の教員等約 10 名を対象とした特別見学会を開催しました。6,000 台以上の自動車を積載できる全長約 200m、全幅約 32m の巨大な船に乗り込み、まずは船倉（貨物スペース）において救命いかだやラッシング等を体験しました。その後、船の操縦を行う船橋（ブリッジ）では、船長からレーダーや電子海図等さまざまな航海計器、船長の役割について説明を受けました。船内見学会の後は、ONE（Ocean Network Express）の協力のもと、リーファー（冷凍）コンテナの体験会にも参加しました。



参加した教員からは、「積み付ける床に車を固定する『ラッシング』用の穴がスロープにまで設置しており、大量の自動車を載せる工夫に驚いた。」「すべてが初めての体験だったので非常に楽しかった。」「港、船などたくさんの興味関心を見つけることができた日でした。」等の声が聞かれました。

2. 自動車船の見学会（7 月 21 日（月） 東京港）

東京国際クルーズターミナルで開催された海の日記念行事 2025 において、商船三井が自動車船「CELESTE ACE」の体験乗船を実施しました。

これに合わせて当協会は、商船三井の協力のもと、日本海事広報協会と共催で小中学校の教員や教育関係者約 25 名を対象とした特別見学会を開催しました。7,000 台以上の自動車を積載できる全長約 200m、全幅約 38m の LNG 燃料の新造船に乗り込みました。まずは見学用の車両で 12 デッキ（12 階）（入り口は 5 デッキ（5 階））まで上がり、船長



室等の居住区を見学しました。その後、船橋では船長からレーダーや電子海図等さまざまな航海計器、操縦桿の説明を受けました。船橋を出た後は、食堂やキッチン、ラウンジ等を見学させていただきました。最後に、自動車の積み付け作業のデモンストレーションを実施していただきました。

参加した教員からは、「新しい船でもきれいだった。船員は個室があるとは思わなかった。」「自動車の積み付け技術は本当に素晴らしい。」等の感想が寄せられました。



3. 造船所・コンテナターミナルの見学会（7月28日（月） JMU・川崎港）

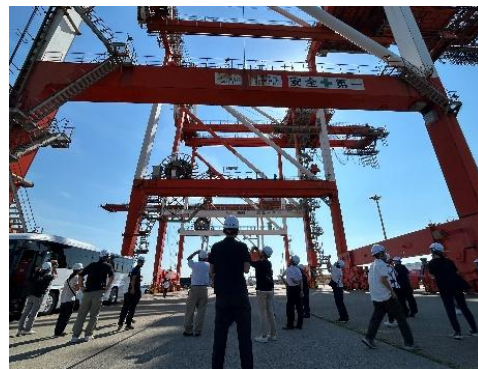
日本海事広報協会と共催で、都小社研（東京都小学校社会科研究会）に参加する教員 33 名を対象に、午前中はジャパンマリンユナイテッド（JMU）横浜事業所にて造船所見学を行い、午後は川崎港に移動し、コンテナターミナルの見学会を実施しました。



造船所では、まず座学にて、船の建造工程や船が 1 隻完成するまでに多くの部署や人員が携わっていること、安全を最優先に作業に取り組んでいること等の説明を受けました。その後、実際の作業現場を見学し、参加した教員は造船所でどのようにして船が建造されていくのかに興味深く見学していました。

コンテナターミナルでは、川崎市港湾局より首都圏の物流を根幹から支えている川崎港の概要を説明いただくとともに、コンテナヤードを見学し、着岸するコンテナ船の荷役をしているガントリークレーンを間近で見学しました。

参加した教員からは見学中も多くの質問等があり、「船が 1 隻建造されるのに 3 年もかかることに驚いた。」「海運・造船のスケールの大きさを生徒たちにも伝えたい。」等の感想が寄せられました。



4. 造船所・博物館の見学及び船長講話（8月6日（水） JMU・横浜みなと博物館）

日本海事広報協会と共催で、都中社研（東京都中学校社会科教育研究会）に参加する教員 26 名を対象に、午前中はジャパンマリンユナイテッド（JMU）横浜事業所にて造船所見学を行い、午後は横浜みなと博物館に移動し、日本船長協会の協力のもと外航船について船長講話を行い、その後博物館を見学しました。

まず、会議室で JMU の成り立ち、各事業所の紹介、横浜工場の紹介をしていただいた後、海事広報協会から海事産業に関するプレゼンを行いました。その後、再度 JMU から船舶の建造工程について説明をいただきました。参加した教員から、長年の建造経歴と複数社の合併による知的財産の保護・継承の仕方や船舶の寿命等、多くの質問が寄せられました。その後、バスで工場内の見学を行いました。広い敷地内には、建造中の船だけでなく、修理や改造のための船舶が多くあり、その数に圧倒されました。



午後は、横浜みなと博物館に移



動し、船長協会の滝浦船長から外航船について説明いただきました。参加した教員からは「船員になりたい子がいたらどうすればいいか？」という質問があり、船員になるまでの方法を丁寧に説明いただきました。滝浦船長からは「自分の夢を周りに言うことで、誰かが助けてくれる。自分も小さい時から船員に憧れ、学校の先生が色々と調べて教えてくれたことを今でも覚えている。是非、子供たちに自分の夢を話すことを勧めてほしい。」との強いメッセージが送られました。

当協会では、今後もこのような繋がりを活かし、学校授業での海運の説明に活用いただき、一人でも多くの学生に関心を持ってもらえるよう、活動を続けてまいります。

以上